



はぐ便り

2019年
12月号
【第71号】

こんにちは！11月3日(日)に『はぐ講座② 子どもとのステキな関わりとふれあい遊び』を開催しました。発達支援相談員であり、ベテラン保育士でもある講師の木村純子先生のお話は、子育てに一生懸命なお父さん、お母さんの心にスッと届き、中には涙される方もいらっしゃいました。研修会の後半は、託児していただいた子どもたちと合流して、一緒にわらべ歌を楽しみました。キラキラと差し込む秋のやわらかな陽ざしと、わらべ歌のゆったりとした優しい雰囲気に包まれて、笑顔の絶えないあたたかい研修会となりました。

講座の一部をご紹介します



日本では目が通い合うことを、アイコンタクトではなく、「目交(まなかひ)」と言います。4~5歳になると言葉が上達するので、しっかり話をするとか目を見て聞くという機会はどうしても減ってしまいます。子どもは集中・注意を向けてもらうことで安心するので、きちんと見てあげてください。スマホや何かを見ながらではなく、親はしっかりと覗き込んであげることが大事。

赤ちゃんの目を見ると、話しかけている人が瞳に映っている。逆にお母さんの瞳には赤ちゃんが映っている。子どもの目に自分の顔が映っているのを見たことがありますか？健診でお母さんに聞くと、ほとんどの人が「ない」と言うのですが、「見てください」と伝えています。映っている自分の顔を見ると「ああ、この子がわが子なんだ」というだけでなく、この子がわが子になったんだ、というご縁を感じるわけです。もし見ていなければ、見てくださいね。

子どもってお母さんがいないと普通泣きますよね？トイレに入るときにも泣く。「私はトイレにすら行けないの？」と思ったことがあります。でも実は全然違うんです。お母さんがいなくなると困る、子どもからすると唯一無二の大事なお母さん。お母さんじゃなければダメ。それだけお母さんが大好きなんです。人生の中で子どもを持って大変なことってたくさんありますよね？でも「泣いて困る」と思うのは大間違い。「これほど私を愛してくれているんだ」と思わないといけな。これ程までに自分を愛してくれる人が世の中にいますか？子どもだけです。自分の立場からではなく、子どもの立場から見てみると、少しは許せるようになりますよ♡

講師
発達支援相談員
木村 純子 氏



木村先生にご紹介いただいた詩

赤ちゃん / 浜 文子

あわて者でもいい
泣き虫でもいい
手先が不器用でも
音痴でも かまわない

もちろん
人が振り向くほどの
美人である必要もない
とりたてて特技がなくても
高尚な趣味も
噂に上るほどの博識も不要

おまけに
学歴
職歴
賞罰
一切不問

そのままのあなたがいい
そのままのあなたが好き
赤ちゃんはそう言いたくて
あなたに両手を伸ばしてくる



参加者の感想を一部をご紹介します

- ★子どもの泣き声にイライラすることが多かったのですが、「それだけ好きでいてくれるんだよ」と聞いてハッとしました。
- ★子どもに共感する気持ちを大切にしていきたい。
- ★具体的な方法を教えていただいたので、取り組みやすいと思った。
- ★少したけ自分の子育てに自信を持てた。
- ★改めて我が子が愛しくなりました。
- ★娘をもっとぎゅーとしてあげようと思いました。先生に大丈夫と言われて安心しました。
- ★わらべ歌を家族でやりたいと思います。

1世にも、託児付きの研修会はありがたい、息子が託児を楽しめたようで嬉しかった、もっと先生の話聞いてみたい、などの感想をいただきました😊



お早めに！
最終決定
サンタまで



んー… やっぱり
ラジコンにしようかなー♡



★ 次回ははぐ便り第72号は2月中旬頃発行予定です★



★ はぐ川柳 絶賛募集中です！

よいお年を♡

